

WebGL によるデータ可視化入門^{*1}

簡単な WebGL プログラム

陰山 聰

神戸大学 システム情報学研究科 計算科学専攻

2013.04.30

^{*1}情報可視化論 X021 (2013 年前期) LR301

事務連絡

前回の復習

線形代数の復習

WebGL グラフィックスパイプライン

事務連絡

- 次週より教室変更
- 3号館1階演習室
- 自分の（ネットにつながる）ノートPCを持ち込んでもよい
- IDとパスワード：

前回の復習

WebGL とは

WebGL = シェーダを使い、HTML5 の canvas に、JavaScript で 3D CG を書くための API

公式 Web Site とサポートしているブラウザ

<http://www.khronos.org/webgl/>

Implementations

- Desktop
 - Apple Safari (WebKit)
 - Google Chrome
 - Mozilla Firefox
 - Opera
- Mobile
 - Chrome for Android
 - Firefox for Android

Demos



Demo Repository

WebGL の特徴

- スタンドアロンアプリからウェブアプリへの流れ
- クロスプラットフォーム
- オープンスタンダード
- Web で GPU を使ったレンダリングが可能
- 開発・利用が容易： プラグイン不要
- ソースコードが見える
- グラフィックス（OpenGL）と UI（ウィンドウ管理やイベント処理）の分離が明白

線形代数の復習

同次座標

同次座標 (homogeneous coordinates) とは 3 次元空間中の位置座標 x と、任意のベクトル v をあえて 4 成分で表現したもの。

位置座標 $x = (x, y, z)^T$ は

$$(x, y, z, 1)^t \quad (1)$$

とする。

ベクトル $v = (v_x, v_y, v_z)^T$ は

$$(v_x, v_y, v_z, 0)^t \quad (2)$$

とする。

アフィン変換

3次元空間の位置座標 x や一般のベクトル v の変換を考える。

$$x \longrightarrow y \equiv F(x). \quad (3)$$

線形変換 = スケール変換 + 回転 + 剪断。

アフィン変換 = 線形変換 + 平行移動。

平行移動は 3 行 3 列の行列では書けない。

同次座標と 4 行 4 列の行列を使えば書ける。

線形代数の復習：内積

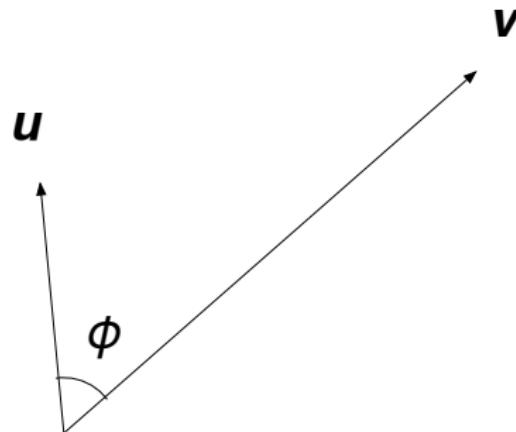
n 次元空間中のベクトルと正方行列

ベクトル u の大きさ

$$u = |u|$$

内積

$$\mathbf{u} \cdot \mathbf{v} = u_i v_j = u v \cos \phi$$



線形代数の復習：正規直交系

$$\mathbf{e}_i \cdot \mathbf{e}_j = \delta_{ij} \quad (\text{クロネッカーデルタ})$$

一般のベクトル v と正規直交系 $\{\mathbf{e}_0, \mathbf{e}_1, \dots, \mathbf{e}_{n-1}\}$

v の i 成分

$$v_i = \mathbf{v} \cdot \mathbf{e}_i$$

線形代数の復習：外積

3次元空間のベクトル

$$\mathbf{w} = \mathbf{u} \times \mathbf{v} \quad w_i = \epsilon_{ijk} u_j v_k \quad (\text{エディントンのイプシロン})$$

w は u と v の両方に垂直

$$w = u v \sin \phi$$

$$\mathbf{u} \times \mathbf{v} = -\mathbf{v} \times \mathbf{u}$$

$$\mathbf{u} \cdot (\mathbf{v} \times \mathbf{w}) = (\mathbf{u} \cdot \mathbf{w}) \mathbf{v} - (\mathbf{u} \cdot \mathbf{v}) \mathbf{w}$$

線形代数の復習：行列のかけ算

M と N は行列

行列 M の成分を M_{ij} ($i, j = 0, 1, \dots, n - 1$)

行列 N の成分を N_{ij} ($i, j = 0, 1, \dots, n - 1$)

とすると

$$\mathbf{L} = \mathbf{M}\mathbf{N}$$

の成分は

$$L_{ij} = \sum_{k=0}^{n-1} M_{ik} N_{kj} = M_{ik} N_{kj}$$

線形代数の復習：行列のかけ算

$$(LM)N = L(MN)$$

$$(L + M)N = LN + MN$$

$$MI = IM = M \quad (I : \text{単位行列})$$

一般には非可換：

$$MN \neq NM$$

線形代数の復習：逆行列

正方行列 M に対して

$$MN = NM = I$$

という行列 N を逆行列という。

逆行列を

$$M^{-1}$$

と書く。

一般には逆行列を求めるのは大変（計算量が多い）

glMatrix.js（後述）では 4 行 4 列の逆行列を求める関数が組み込まれている。

線形代数の復習：行列式

正方形行列に対して

$$\det(\mathbf{M})$$

$$\det(\mathbf{I}) = 1$$

$$\det(\mathbf{MN}) = \det(\mathbf{M}) \det(\mathbf{N})$$

$$\det(\mathbf{M}^t) = \det(\mathbf{M})$$

線形代数の復習：行列の転置

行列 M の成分を M_{ij} ($i, j = 0, 1, \dots, n - 1$)

転置行列を M^t と書く

a を数、 M と N を行列として

$$(aM)^t = aM^t$$

$$(M + N)^t = M^t + N^t$$

$$(M^t)^t = M$$

$$(MN)^t = N^t M^t$$

線形代数の復習：行列のトレース

$$\operatorname{tr}(M) = \sum_{i=0}^{n-1} M_{ii}$$

線形代数の復習：直交行列

$$\mathbf{M}\mathbf{M}^t = \mathbf{M}^t\mathbf{M} = \mathbf{I}$$

を満たす正方行列 \mathbf{M} を直交行列という。

$$\mathbf{M}^t = \mathbf{M}^{-1}$$

$$\det(\mathbf{M}) = \pm 1$$

\mathbf{M}^t も直交行列。

直交行列はベクトルの長さを変えない：

$$|\mathbf{M}\mathbf{u}| = |\mathbf{u}|$$

直交する二つのベクトルを直交行列で変換すると直交する

$$\mathbf{u} \cdot \mathbf{v} = 0 \iff (\mathbf{M}\mathbf{u}) \cdot (\mathbf{M}\mathbf{v}) = 0$$

3次元空間中の平面

点 p を通り、ベクトル u とベクトル v で張られる平面の式：

$$\mathbf{x} = \mathbf{p} + s \mathbf{u} + t \mathbf{v}$$

単位ベクトル $n \equiv \mathbf{u} \times \mathbf{v} / |\mathbf{u} \times \mathbf{v}|$ を使えば、

$$\mathbf{n} \cdot \mathbf{x} + d = 0$$

n を法線ベクトルという。 $f(\mathbf{x}) = \mathbf{n} \cdot \mathbf{x} + d$ とすると

$f(\mathbf{x}_0) = 0 \iff$ 点 \mathbf{x}_0 はこの平面の上

$f(\mathbf{x}_0) > 0 \iff$ 点 \mathbf{x}_0 は $\mathbf{p} + \mathbf{n}$ 側にある

$f(\mathbf{x}_0) < 0 \iff$ 点 \mathbf{x}_0 は $\mathbf{p} - \mathbf{n}$ 側にある

面積

3点 p, q, r を頂点とする 3 角形の面積

$$S = \frac{1}{2} |(\mathbf{p} - \mathbf{r}) \times (\mathbf{q} - \mathbf{r})|$$

$x-y$ 平面上におかれた n 角形の面積

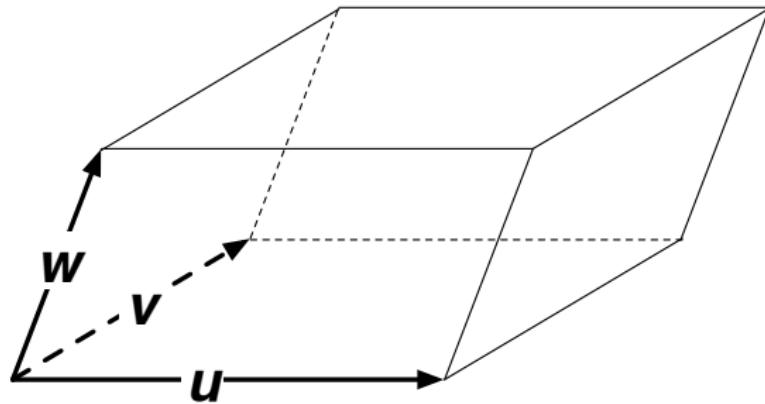
$$S = \frac{1}{2} \sum_{i=0}^{n-1} (x_i y_{i+1} - y_i x_{i+1}) = \frac{1}{2} \sum_{i=0}^{n-1} \{x_i (y_{i+1} - y_{i-1})\}$$

添字は $\text{mod } (n)$ をとる。

体積

原点を基点とする 3 つのベクトル u, v, w が張る平行 6 面体の体積

$$V = u \cdot (v \times w) = v \cdot (w \times u) = w \cdot (u \times v)$$



同次座標

3次元 4次元

3次元空間の位置座標

$$(x, y, z) \implies (x, y, z, 1)$$

3次元空間のベクトル

$$(v_x, v_y, v_z) \implies (v_x, v_y, v_z, 0)$$

3次元空間の行列

$$M = \begin{pmatrix} M_{00} & M_{01} & M_{02} & 0 \\ M_{10} & M_{11} & M_{12} & 0 \\ M_{20} & M_{21} & M_{22} & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

平行移動

平行移動行列

$$T(t_x, t_y, t_z) = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & t_x \\ 0 & 1 & 0 & t_y \\ 0 & 0 & 1 & t_z \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (4)$$

回転

z 軸の周りの回転

$$R_z(\theta) = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta & 0 & 0 \\ \sin \theta & \cos \theta & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (5)$$

スケール変換

$$S(s_x, s_y, s_z) = \begin{pmatrix} s_x & 0 & 0 & 0 \\ 0 & s_y & 0 & 0 \\ 0 & 0 & s_z & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (6)$$

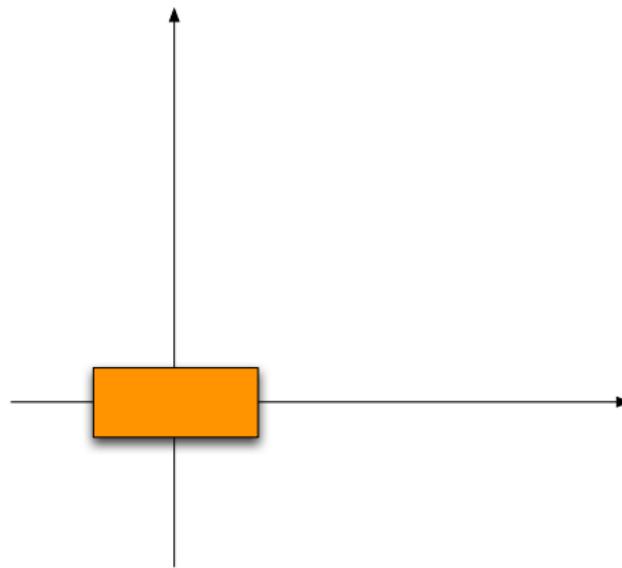
剪断

$$H_{xy}\beta = \begin{pmatrix} 1 & \beta & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (7)$$

座標変換の合成

アフィン変換は非可換。一般に

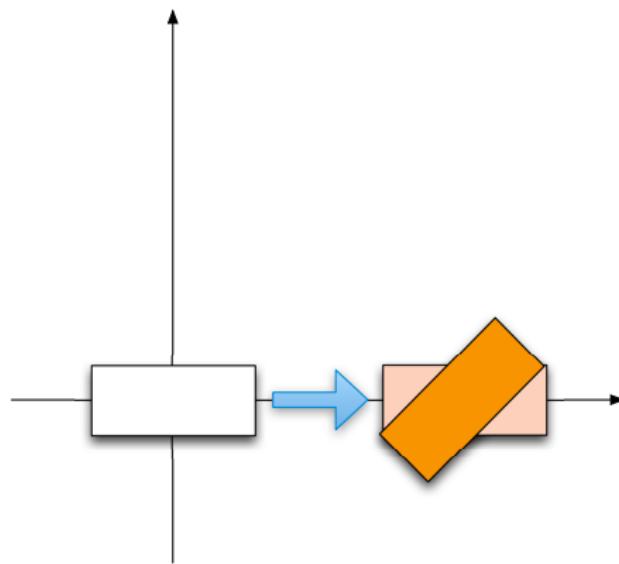
$$M_1 M_2 \neq M_2 M_1$$



座標変換の合成

アフィン変換は非可換。一般に

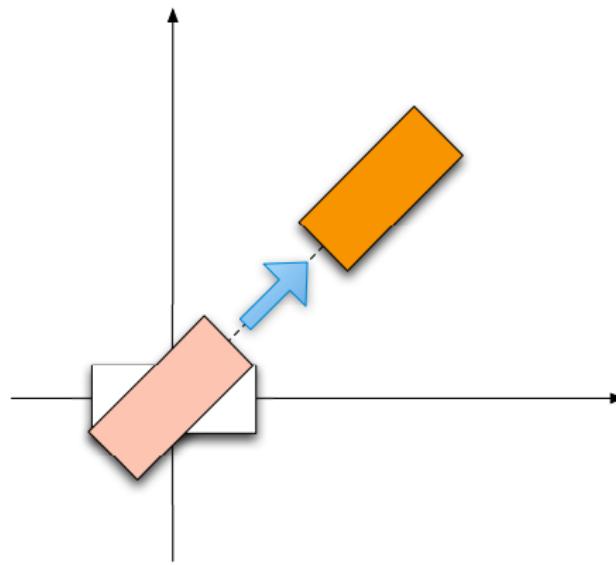
$$RT \neq TR$$



座標変換の合成

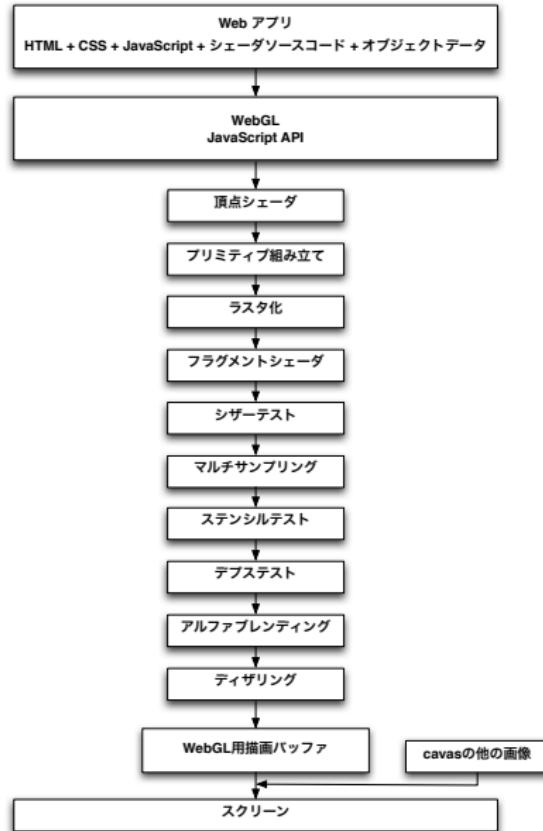
アフィン変換は非可換

$$RT \neq TR$$

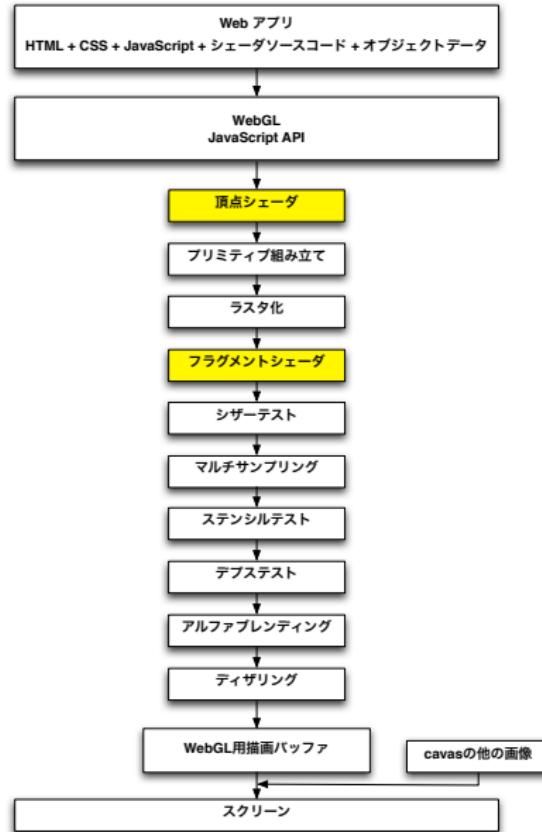


WebGL グラフィックスパイプライン

WebGL のグラフィックスパイプライン

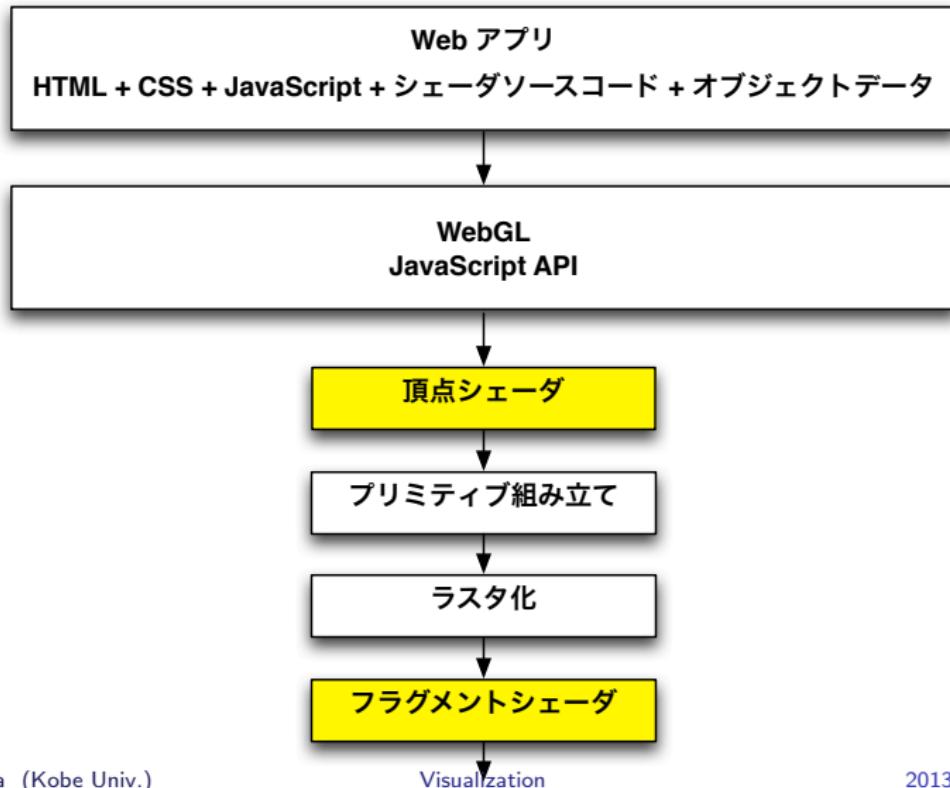


シェーダ (拡大図は次のページ)



シェーダ

頂点シェーダ（バーテックスシェーダ）とフラグメントシェーダ



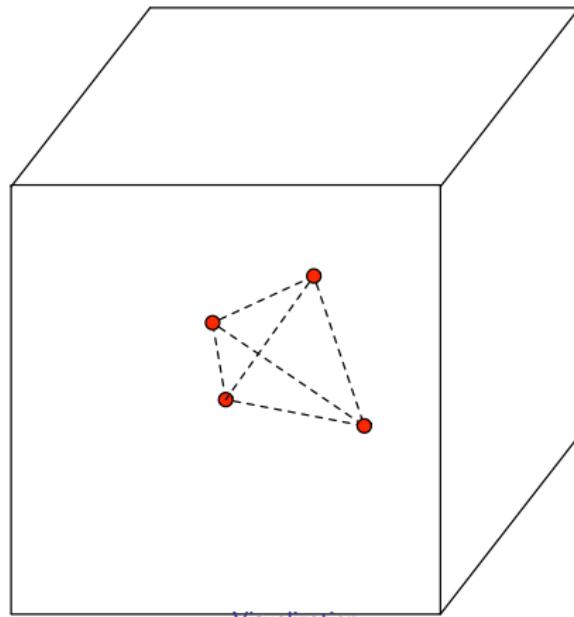
WebGL アプリケーション

Web アプリ = HTML + CSS + JavaScript

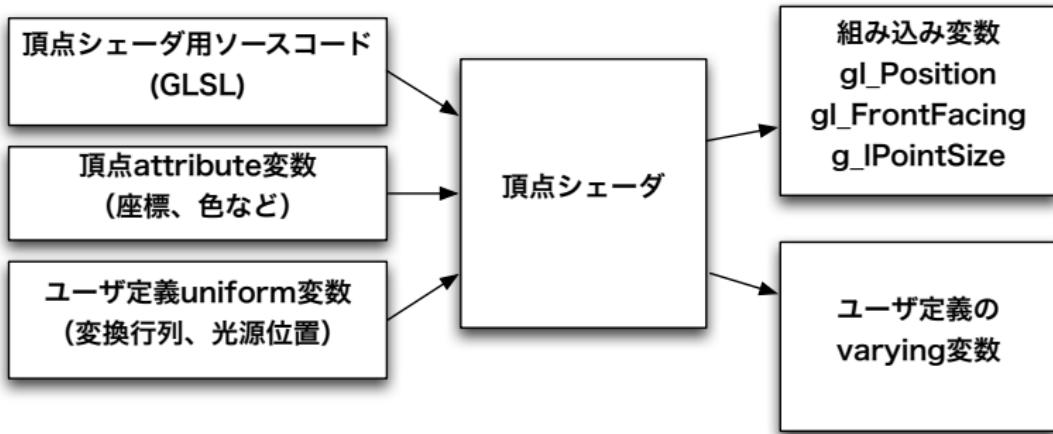
WebGL アプリ = HTML + CSS + JavaScript + シェーダ言語 (OpenGL
SL)

頂点シェーダ

- 各頂点に対して処理を行う
- 並列処理
- n 個の頂点があれば n 個の頂点シェーダプロセッサを同時に実行させる



頂点シェーダの入出力データ



頂点シェーダプログラム

- C 言語に似ている。
- OpenGL SL (Shading Language)
- 4 行 4 列の行列ベクトル演算が組み込み関数

```
attribute vec3 aVertexPos;
attribute vec4 aVertexColor;

uniform mat4 uMVMatrix;
uniform mat4 uPMatrix;

varying vec4 vColor;

void main() {
    gl_Position = uPMatrix * uMVMatrix * vec4(aVertexPos, 1.0);
    vColor = aVertexColor;
}
```